

障害者作業所の受注後押し

広島県売り込み仲介

広島県が、障害者の作業所がつくる商品の販路を広げ、新たな仕事を開拓しようと、企業への売り込みに乗り出している。2012年9月から専従のスタッフが企業を回り、6社と契約が成立した。自立した生活を送るには足りない障害者の工賃を引き上げようと、作業所を後押しする。(衣川圭)

専従者奔走 6社と成約

県は、県内の作業所が加盟し、障害者の就労支援に取り組み県就労振興センター(広島市南区)に業務を委託。センターが新たに職員

として採用した小竹均さん(58)が県内の店舗や企業を訪問し、作業所の商品の販売や、作業所への仕事の発注を働き掛ける。

12年10月にデパート(中区)のイベント会場で作業所のクッキーを販売。乾物店(佐伯区)の製品にシールを張り、警備会社(中区)のキャラクターのストラップを作る仕事も受けた。ビルの消火器の点検作業など、準備中の案件も含め6社との商談がまとまり、11作業所が新たな販路や仕事を確保した。

自閉症やダウン症の人たちがクッキーを作る東区戸坂南のきつつき共同作業所は、広島空港(三原市)の売店への納品が決定。18日から販売される。生地作りを担う武谷美代子さん(30)は「味には自信がある。たくさん売れたらうれしい」と期待する。

(38)は「商品のアピールの仕方が分からず、口コミが頼りだった。県の後押しはありがたい」と話す。

県の試算によると、障害者が年金をもらいながら自立生活を送るには月3万3500円の工賃が必要という。一方、県内151作業所の平均工賃は2011年度、月1万4397円にとどまる。県は作業所の収入を増やすことで、14年度に1万8700円に引き上げたいとしている。

作業所の商品のPRに駆け回る小竹さんは「コロッケ販売店チェーンを経営した経験を持つ。「作業所には魅力的な商品が多く、請け負える仕事の幅も広い。仕事はもっと開拓できる」と意気込んでいる。」



職員の丸本哲也さんクッキーを作るきつつき共同作業所の利用者。18日から広島空港の売店で販売される。